

● 幹事報告 網谷徹己幹事

幹事報告をご覧ください。

- 本日の例会終了後、ロータリー財団、会報・公共イメージ、職業奉仕の各委員会があります。
- 8月5日11:00より8月理事会があります。
- 8月5日17:30より、川口ブルワリーにて新会員研修会、19:00より歓迎会があります。
- 8月19日の11:00より、昨年度の決算理事会があります。



● 出席報告 平田修一委員

本日分	7月29日
会員数	96名
出席	41名
Zoom参加	11名
MAKE-UP	1名
出席率	58.89%



● 本日の行事

● 八会記念祝



小倉克徳会員、花石啓介会員、増井千恵子会員、早船雅文会長、吉田馨会員、北村透会員、平田修一会員、網谷徹己幹事

● 本日の司会

山下哲博会員



● ニコニコ資金報告 榎本英明委員

前日までの累計	157,000円
本日の計(23件)	33,000円
本日までの累計	190,000円



① 入会記念祝
本日入会祝いの方おめでとうございます。

早船雅文会長
入会祝いありがとうございます。4年目に入りました。
網谷徹己幹事
入会祝いありがとうございます。平田修一会員
入会8年目に入りました。これからも宜しくお願いします。
小倉克徳会員
入会記念祝いおめでとうございます。榎本英昭会員
入会1年、とても早い1年でした。これからもよろしくお願ひいたします。花石啓介会員
おかげ様で入会1年になりました。これからも宜しくお願いします。吉田馨会員
以下、同様の趣旨で、北村透会員、金子邦彦会員

② 会員卓話 小高雅夫会員 ~弁護士残酷物語~
小高さん卓話よろしくお願ひします。早船雅文会長
あちこちのクラブで卓話されている小高先生。卓話
楽しみです。宜しくお願いします。網谷徹己幹事
卓話楽しみにしています。北村透会員
小高さん卓話楽しみにしています。新井秀雄会員
小高さん卓話楽しみにしています。小川長四郎会員
卓話お願ひします。下館貴子会員
小高さん卓話お願ひします。柳澤昭子会員
小高さん卓話楽しみにしています。永瀬秀樹会員
小高さんの卓話楽しみにしています。先日の続きで
すか。木内賢治会員
小高さん卓話楽しみにしています。山下哲博会員
以下、同様の趣旨で、杉山伶子会員

③ その他
小高さん卓話宜しくお願いします。8/1岩手県那須野
会員の所に行つて来ます。佐藤進会員
毎日暑い日が続いています。オリンピックも盛大に行
われています。体に気を付けて頑張りましょう。
朝日恵子会員
波乱づくしのオリンピックですがけっこう楽しんで
います。コロナ禍収まらないので今年の秋も仕事
が期待できません。。。ヘルプ！ 篠田元一会員

会 員 卓 話

小高検事の事件回想録 (弁護士残酷物語)

初めは詐欺師の弁護士としてY弁護士と検事5年目の小高検事が対決、2回目は業務上横領の犯人として検事11年目の小高検事がY弁護士を逮捕、3回目は検事13年目にY弁護士が殺人事件の被害者となった春日部弁護士等殺人事件の主任検事として捜査を担当、Y弁護士との3回にわたる宿命的な出会いの物語。



第1幕 水戸地検土浦支部の5年目の検事として

詐欺師の清水将治郎は、分譲住宅販売会社の社長という触れ込みで、土地家屋調査士を抱き込んで、土浦近辺の更地に掘って立て小屋のような家を見て、これを不動産登記法上の「建物」が完成したものとして、その土地家屋調査士をして法務局に表示登記申請させ、これを分譲するという形を装い、配下の男を分譲住宅の取得者として、その男が取得資金が足りないとして住宅ローンの申請人を装わせて、東京に本社があった(株)住宅ローンサービスという融資会社に虚偽のローン申し込みをさせ、返済の意思も能力もなく、住宅ローンサービスに担保として提供する物件は、柱と土台と屋根しかない「建物」とはとうてい認定できない担保価値のない物件を、完成した一戸建てのように装い、住宅ローンサービスから1件あたり4000万円程度の融資金を詐取するという行為を連続して続けていたものである。

Y弁護士は、押し出しも良く顔つきも歴戦の刑事弁護士という風体で、検事5年目のひよこであった当職は、証拠上問題のない詐欺事件であったにもかかわらず、終始Y弁護士ペースで公判立会を余儀なくされたが、最終的には被告人清水将治郎を懲役3年の実刑に処する判決を得た。

登記は、不動産の表示に関する登記と権利に関する登記に分かれ、表示登記は、不動産の物理的性状、位置などを登記簿に記載することにより、不動産それ自体の客観的状況をそのまま公示するのを主たる機能とするもの。

第2幕 浦和地検捜査本部係検事として

浦和地検刑事部に赴任直後、先輩の検事から「ある弁護士が交通事故の被害者から依頼を受けて示談金として2000万円を加害者側から預かったが、これを被害者に渡さず、預かっていないなどと金を左右にして被害者の要求に応じないという告訴事件を受理しているの、小高さん応援検事として事件に関与してくれないか」という要請があり、直ちに捜査班を組んで、事件の検討に入ったが、何とその横領弁護士は、土浦時代に対決したY弁護士であった。

当職は、事件着手後すぐに検察事務官数名と秋葉原駅東口に法律事務所を構えるY弁護士事務所を搜索して、関係書類を押収したが、その際に関係書類から早稲田大学時代に教授から嘱望されて刑法学者の卵としての学生生活を送っていたこと、弁護士になってから草加市長選挙に左翼政党に担がれて立候補したものの落選し、多額の借財を負った状況などが判明した。

弁護士は逮捕当時アルコール中毒のような状況でしばらくは犯行を否認していたが、最終的には犯行を認め、奥さんが金策をして交通事故の被害者に2000万円を支払い、示談して検察庁の処分としては、起訴猶予になり釈放されたが、東京の弁護士会からは弁護士除名の処分となり、以後弁護士の業務ができなくなった。

第3幕 浦和地検財政経済係検事として

浦和地検勤務を3年目を迎え、刑事部では最古参の検事として後輩を指導し、脱税事件や知能犯事件の捜査に従事する毎日であったが、ある日、春日部市内の焼鳥屋の2階で男性と女性の二人が刺身包丁で滅多刺しになり犯人は焼鳥屋の主人であるとの事件が発生したので、小高君行ってくれないかとの指示が刑事部長からあり、すぐに現場に急行した。現場は小料理屋2階の畳敷きの部屋で、部屋の布団から壁から鮮血が飛び散っており、男性は向かって左側の布団上に仰向けの格好で横たわっており、顔に刃物の刺し傷が5・6箇所ついた状態で、悪鬼のような形相で殺されており、その隣の布団上には年齢45歳位の色っぽい女性がやはり包丁で何回も刺された様子で横たわっていた。

捜査1課の担当者に聞くと、被害者は焼鳥屋の亭主の奥さんと元弁護士のYさんだということで、もう一度男性の顔を良く見たところ、あの弁護士会を除名になったY弁護士ではないか、おもわず手を合わせた。

捜査を進めたところ、焼鳥屋の亭主は以前洗濯屋を妻と共に営んでいたが、経営が左前になり、妻も家計の足しとやって始めたキャバレーの夜のホステスの仕事が意外に本人の水にあい、お客もついて浮気をしているような兆候も見え始めた。そこで、亭主は妻を手元に置きたいが為、洗濯屋をたたみ焼鳥屋を開業し、お客あしらいがうまく、愛想を振りまく妻の助けもあってそこそこの営業ができていたが、妻がお客に馴れ馴れしい仕草をするとヤキモチを焼いて客の前で妻を怒鳴り飛ばしたりするので、客足も少しずつ落ちて、妻の気持ちも夫から離れつつあったが、亭主としては妻がお客と浮気していると疑い、弁護士と相談して妻の別れたいとの気持ちを封じて貰おうとして、別客の紹介で除名処分中で本来なら弁護士業務ができないY弁護士に妻との間の仲裁を求めた。

Y先生は亭主と妻の当事者双方の話を聞いていく内に、自己の生育歴から判断して、これは依頼者の亭主の方が異常な嫉妬心を燃やして妻を責めることに原因があると思いついた。本来なら、依頼者からの依頼内容が実現できなければその時点で辞任すべきであるが、Y弁護士の独自の正義感からか、焼鳥屋の2階で夫婦を相手に「そもそも亭主が悪い」と一方的に妻の肩を持つ見地から話を始め、いぶかる亭主の気持ちを逆なでしたばかりか、亭主が弁護士の意見に耳を貸さないと見るや、一計を案じ、土浦時代の詐欺師清水将治郎をヤクザの親分に仕立て上げて同人を同席させて、ヤクザの親分の恫喝により妻と離婚させようと計り、清水に電話で因果を含めて、焼鳥屋の2階に呼んでヤクザの親分役をやらせる事までした。話しあいがつかず、夜も更けたので、2階の北側の部屋でY先生と妻が、隣の部屋で亭主が寝ることにしたが、亭主は自分が頼んだ弁護士が何故裏切って妻の味方をして、別れさせようとするのか、考えれば考えるほど腹が立ち、離婚されるくらいなら二人をこの場で殺してやろうと決意し、2階から1階におり、包丁立てから刺身包丁を取り出し、2階に戻り、まず憎い弁護士を10数回刺してから、その物音に驚いて逃げようとした妻を背後から数回刺して絶命させてしまった。